

3.2. 道路のユニバーサルデザイン化情報を提供している事例（東京都台東区）

(1) 取組の背景・経緯

台東区バリアフリー協議会や区議会から、バリアフリー化の進捗を見える化すべきではないか、という意見があったことがきっかけで、道路のバリアフリー化情報の提供を検討した。

台東区では、都市計画や認定道路、AED の情報等を地図上に掲載した「たいとうマップ」を既に情報提供しており、その基盤地図を活用しユニバーサルデザインに関するマップを作成した。

(2) 取組内容

車いすを利用している方をはじめ、視覚障害者や聴覚障害者、高齢者、妊産婦、幼児連れなどの方々が、安心して気軽に外出することができるよう、区内の公共施設（区役所、区民事務所、区民館、図書館、福祉施設、公園等）、駅、民間施設（大型商業施設等）、病院、文化観光施設などのバリアフリー情報（トイレやエレベーター、授乳スペースの有無など）を地図上に掲載している。

公共施設等のバリアフリー情報とあわせて、バリアフリー基本構想で設定している生活関連経路について、視覚障害者誘導用ブロックの整備状況（全線・一部）と歩道の整備済み/未整備を情報提供している。

台東区では年1回台東区バリアフリー協議会（学識経験者、関係行政機関、高齢者・障害者団体、町会、商店街、公共交通事業者 等による構成）を開催し、整備の進捗状況を報告しており、その際に台東区以外の道路管理者の情報も入手し、バリアフリーマップに反映している。予め設定されている道路の区間ごとに、担当者が整備状況を入力することで情報が更新される。

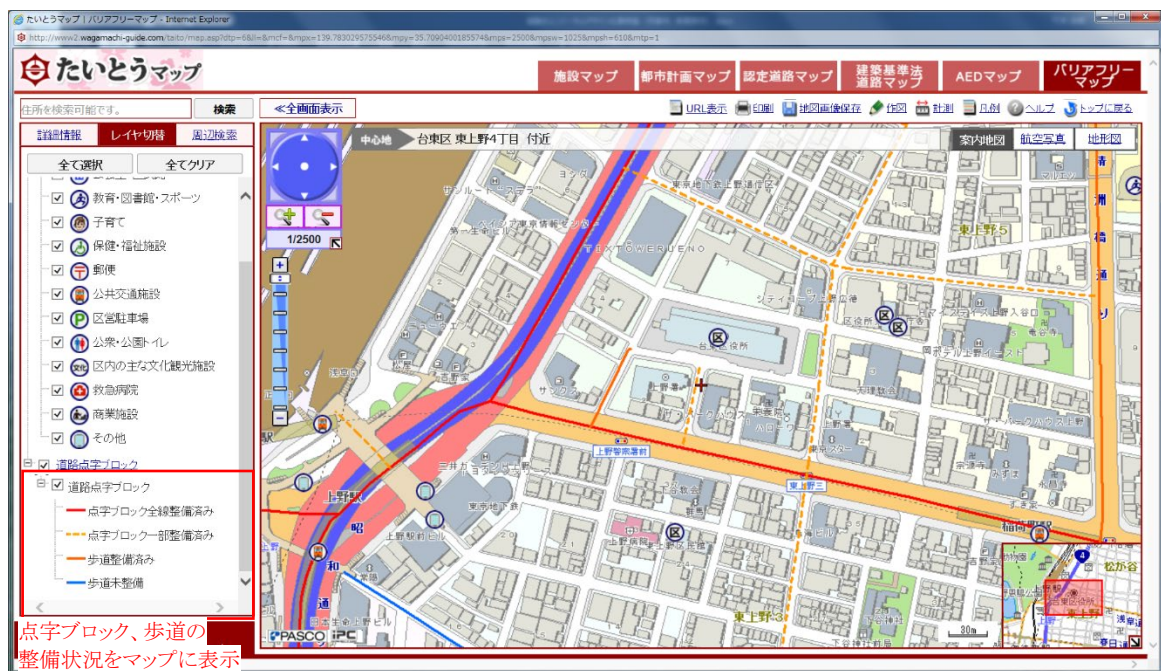


図 3-4 たいとうマップ（バリアフリーに関する情報）

出典：台東区ホームページより作成

URL:<http://www2.wagamachi-guide.com/taito/index.asp?dtp=6&mcfc=>

(3) 情報提供の効果

特に車いす使用者の方や介護者、幼児連れの方から事前に情報を得るために活用されている。